



Sun Fire™ V20z および Sun Fire V40z サーバー

Linux オペレーティングシステム
インストールマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-6156 -15
2005 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Linux Operating System Installation Guide Part No: 817-5250-15 Revision A
-----	---



目次

1. このマニュアルの使用方法 1
 - 概要 1
 - ユーザーマニュアル 2
 - 関連マニュアル 3
2. Sun™ Installation Assistant CD 5
 - Sun Installation Assistant の使用法 6
 - エラーメッセージ 8
 - ログファイル 8
3. Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール 9
 - CD からの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール 10
 - 用意するもの 10
 - ソフトウェアのインストール 10
 - ネットワークからの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール 14
 - 用意するもの 14
 - PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成 15
 - PXE サーバーからのソフトウェアのインストール 18
 - オペレーティングシステムおよびドライバの更新 19
 - Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアの更新 19

- SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード 19
- 4. SUSE Linux Enterprise Server 8 (SLES 8) ソフトウェアのインストール 23
 - CD からの SUSE Linux Enterprise Server 8 のインストール 24
 - 用意するもの 24
 - ソフトウェアのインストール 25
 - ネットワークからの SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアのインストール 28
 - 用意するもの 28
 - PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成 29
 - PXE サーバーからのソフトウェアのインストール 33
 - オペレーティングシステムおよびドライバの更新 34
 - SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアの更新 34
 - SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード 35
- 5. SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES 9) ソフトウェアのインストール 37
 - CD からの SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストール 38
 - 用意するもの 38
 - ソフトウェアのインストール 39
 - ネットワークからの SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアのインストール 42
 - 用意するもの 42
 - PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成 43
 - PXE サーバーからのソフトウェアのインストール 46
 - オペレーティングシステムおよびドライバの更新 47
 - SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアの更新 47
 - SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード 48
- 6. SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール 51
 - CD または DVD からの SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール 52

用意するもの	52
CD または DVD からのソフトウェアのインストール	54
ネットワークからの SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール	56
用意するもの	56
PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成	57
PXE サーバーからのソフトウェアのインストール	59
オペレーティングシステムおよびドライバの更新	60
SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアの更新	60
SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード	61
A. PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定	63
Red Hat Linux インストールをサポートするためのネットワークの事前設定	64
用意するもの	64
Documentation and Support Files CD からのファイルのコピー	65
DHCP サーバーの設定	66
portmap のインストール	67
TFTP サービスの設定	67
neopxe 起動サーバーデーモンのインストールと設定	68
NFS サービスの設定	70
ファイアウォールの無効化	71
ネットワークからの Red Hat Linux のインストール	71
SUSE Linux インストールをサポートするためのネットワークの事前設定	72
用意するもの	72
Documentation and Support Files CD からのファイルのコピー	73
DHCP サーバーの設定	73
portmap のインストール	74
TFTP サービスの設定	75
neopxe 起動サーバーデーモンのインストールと設定	76

NFS サービスの設定 78

ファイアウォールの無効化 79

ネットワークからの SUSE Linux のインストール 79

索引 81

第1章

このマニュアルの使用方法

注 – このマニュアルは、Linux ソフトウェアをインストールするユーザーを対象としています。Solaris™ ソフトウェアのインストール手順については、Solaris のマニュアルを参照してください。

概要

このマニュアルでは、Linux オペレーティングシステム (OS) ソフトウェアを Sun Fire™ V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーにインストールする手順について説明します。5 ページの「Sun™ Installation Assistant CD」では、この CD を使用して Linux OS をインストールする方法について説明します。この CD は必要に応じて使用します。

Linux OS 別に章が分かれており、各 OS についてはこのマニュアルの発行時点で Sun Microsystems™ により Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバー上で正常に動作することが確認されています。

ディスク媒体からインストールする手順とネットワークに接続された PXE インストールサーバーからインストールする手順を、OS ごとに示します。付録では、PXE インストールをサポートするようにネットワークをあらかじめ設定しておく手順について補足説明します。

また、各章では、それぞれの OS でサーバーの動作をサポートするドライバおよびカーネルを最新バージョンに更新する手順についても詳しく説明します。

注 – このマニュアルのシステム管理手順は、基本的な Linux 管理またはそれ以上の経験があるユーザーを対象としています。

このマニュアルを使用するには、次の 4 つの手順を実行します。

1. このマニュアルの手順を開始する前に、サーバー本体を設置し、サービスプロセッサの初期設定を実行して、サーバーでネットワーク共有ボリューム (NSV) ソフトウェアを設定します。この手順の詳細は、Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD に収録されている『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー設置マニュアル』を参照してください。
2. インストールする OS に応じて、参照する章を判断します。また、Sun Installation Assistant CD の指示に従ってインストール手順を完了することもできます。この CD を使用した場合は、使用中のハードウェアに対応した最新の SCSI ドライバおよびネットワークドライバが自動的にインストールされます。詳細は、5 ページの「Sun™ Installation Assistant CD」を参照してください。
3. OS を物理媒体 (CD または DVD) からインストールするのか、ネットワークに接続された PXE インストールサーバーからインストールするのかを決定し、インストールする OS に応じた章の該当する節を参照します。ただし、PXE インストールをサポートするようにネットワークをまだ設定していない場合は、このマニュアルの付録 A の補足手順を実行するよう指示があります。
4. OS をインストールしたあとで、その OS に応じた章の指示に従って、ドライバおよびカーネルを最適なバージョンに更新します。ダウンロードサイトに進むように指示される場合もありますが、必要なネットワークドライバファイルおよび SCSI ドライバファイルの多くは、手順でも示されるように Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD に収録されています。

ユーザーマニュアル

Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの両方に関する最新のユーザーマニュアルは、次の Web サイトで参照してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/Sun_Fire_V20z/index.html

このサイトでは、ユーザーマニュアル、リリースノート、および顧客交換可能ユニット (CRU) に関する個々のマニュアルが参照できます。

サイト上のマニュアルが、使用しているマニュアルよりも新しいかどうかを確認するには、マニュアルの Part No. の下 2 桁 (ダッシュ以降) を調べてください。

注 – また、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーのリリースバージョン間での違いについて説明しているマニュアルも、この Web サイトから入手できます。Part No. (PN) 817-7185 のマニュアルを参照してください。

関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
安全性に関する情報	『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』	816-7190-xx
安全性に関する注意事項および国際的な規格への適合性の保証	『Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers – Safety and Compliance Guide』	817-5251-xx
ハードウェアの設置およびシステムソフトウェアのインストール	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー – 設置マニュアル』	817-6146-xx
保守手順およびその他の情報	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー – ユーザーマニュアル』	819-2918-xx
サーバー管理	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー – サーバー管理マニュアル』	819-2923-xx
障害追跡および診断	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー – 障害追跡手法および診断マニュアル』	819-2928-xx
最新情報	『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー – ご使用にあたって』	819-2913-xx

第2章

Sun™ Installation Assistant CD

Sun™ Installation Assistant CD を使用すると、サポートされている Linux オペレーティングシステム (OS) を容易にインストールできます。この CD には、品質保証テスト済みの Sun 対応ドライバのセットが収録されています。

Sun Installation Assistant CD を使用すると、オペレーティングシステム、適切なドライバ、およびその他のソフトウェアをシステムにインストールできます。ドライバ更新用フロッピーディスクを作成する必要はありません。

注 – Sun Installation Assistant CD を使用しても、OS インストールプロセスは自動的に行われません。第 3 章、第 4 章、第 5 章、および第 6 章の手順に従う必要があります。

Sun Installation Assistant は、次の作業を実行します。

- システムに設置されているハードウェアを特定する。
- オペレーティングシステムをインストールする。
- ドライバおよびプラットフォーム固有のソフトウェアを特定し、インストールする。

注 – Sun Installation Assistant CD は、必要に応じて使用します。この CD は、ユーザーの利便性を高める手段として用意されています。

Sun Installation Assistant の使用法

注 – 手順 10 で、インストール対象のサポートされる Linux ディストリビューションに応じて、第 3 章、第 4 章、第 5 章、または第 6 章に進んでください。インストールが完了すると、「Sun Installation Assistant」画面に戻ります。

Sun Installation Assistant を使用するには、次の手順を実行します。

1. Sun Installation Assistant CD を、サーバーの CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブに挿入します。
2. サーバーを再起動します。

サーバーが再起動すると、Sun Installation Assistant が起動します。これには数分かかる場合があります。

まず、「Software License Agreement」画面が表示されます。

3. ライセンス条項に目を通します。

注 – ライセンス本文のウィンドウの最後までスクロールすると、「Accept」ラジオボタンが有効になります。

同意する場合は、「Accept」ラジオボタンを選択し、「Next」をクリックして次に進みます。このとき「Next」ボタンが有効になるのは、「Accept」ラジオボタンを選択した場合のみです。「Welcome」画面に Assistant の紹介が表示されます。

同意しない場合は、「Decline」ラジオボタンを選択し、「Exit」をクリックして Sun Installation Assistant を終了します。サーバーの再起動を求めるプロンプトが表示されます。

4. 「Welcome」画面で、「Next」をクリックします。

次の例のように、設置されているハードウェアが Assistant によって特定され、SCSI デバイスが走査されます。

```
Identifying hardware...identified as Sun Fire V20z.  
Scanning for SCSI devices...done.
```

5. Sun Installation Assistant CD が排出され、サポートされる Linux ディストリビューションのリストが画面に表示されます。リストに挙げられる Linux ディストリビューションは、サーバーのハードウェアによって異なります。

注 – 次に示すリストは一例にすぎません。サポートされる Linux ディストリビューションの詳細なリストについては、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー – ご使用にあたって』(819-2913) を参照してください。

- Red Hat Enterprise Linux 3 WS
- Red Hat Enterprise Linux 3 ES
- Red Hat Enterprise Linux 3 AS
- Red Hat Enterprise Linux 3 WS – 64bit
- Red Hat Enterprise Linux 3 AS – 64bit
- SUSE Linux 9.0 – 64bit

6. サポートされるいずれかのディストリビューションの Disc 1 を挿入します。
7. 「Next」をクリックします。
8. 次の例のように、Assistant によって Linux ディストリビューションが特定され
ます。

Identifying distribution...identified as SUSE Linux 9.0 - 64bit

9. このディストリビューションのインストーラを開始するには、「Next」をクリックし
ます。
手動でディストリビューションをインストールする場合と同じインストーラ画面が、
GUI を使用して表示されます。

注 – SUSE SLES 8 Service Pack 3 – 64bit をインストールする場合は、その Service Pack 3 CD から開始します。システムによって SUSE SLES 8 CD-1 の挿入を求めるプロンプトが表示されます。

この CD を挿入し、「Next」をクリックします。

10. インストーラの画面に従って処理を進めます。
11. インストールが完了すると、Sun Installation Assistant がふたたび表示され、ディ
ストリビューションに適したドライバおよび追加のソフトウェアが自動的にインス
トールされます。
Assistant は、特定の OS カーネルに適した RPM のみをインストールします。

注 – この処理では、以降の各章の「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」で説明する、サーバー用のドライバを手動でアップグレードする手順が自動で行われます。

12. 次の例のように、インストールされた追加のソフトウェアが最後の画面に表示されません。

```
The SUSE Linux Pro 9.0 - 64bit installation has completed.  
Installing Sun Fire V20z drivers...completed.  
The installation has completed.
```

注 – サポートされていない媒体を使用すると、エラーメッセージが表示されます。詳細は、8 ページの「エラーメッセージ」を参照してください。

13. 新しくインストールした OS を起動するには、「Reboot」をクリックします。

エラーメッセージ

エラーメッセージの多くは、「You have inserted Disc 3 but the system requires Disc 2. Please insert Disc 2.」のように簡潔な内容になっています。

ただし、サポートされていない媒体を使用すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
"The media you have provided is not a release that is supported by  
Sun Microsystems, Inc.on this platform.You cannot use the Sun  
Installation Assistant to install this product and associated  
software."
```

次のいずれかのオプションを選択してください。

- サポートされる製品をインストールするには、「Back」をクリックし、適切な媒体を挿入します。
- サポートされていない製品をインストールするには、「Exit」をクリックして Sun Installation Assistant を終了し、システムを再起動します。これで、サポートされていない製品も通常どおりにインストールできます。

ログファイル

Sun Installation Assistant のログファイルは、新しくインストールしたシステムの /root ディレクトリに書き込まれます。

このログファイルを確認するには、/root/SunInstallationAssistant.log ファイルを参照してください。

第3章

Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール

この章では、Sun Fire V20 サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーで Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアをインストールおよび更新する方法について説明します。2 種類のサーバー間で手順が異なる場合は、その違いを明記しています。

注 – この章のシステム管理手順は、基本的な Linux 管理またはそれ以上の経験があるユーザーを対象としています。

注 – オペレーティングシステムをインストールするときは、Sun Installation Assistant CD を使用すると便利です。Sun Installation Assistant は、SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレードも行います。

この章では、次の内容について説明します。

- 10 ページの「CD からの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール」
- 14 ページの「ネットワークからの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール」
- 19 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」

CD からの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール

CD から Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアをインストールする作業は、次の手順で構成されます。

1. Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアをインストールします。詳細は、10 ページの「ソフトウェアのインストール」を参照してください。
2. Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアを更新します。詳細は、19 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

CD からのインストール手順では、次のものがが必要です。

- 次の周辺機器を装備した Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバー
 - CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ
 - PS/2 キーボード
 - PS/2 マウス (必要に応じて使用。インストール作業では使用しないため)
- モニター
- Red Hat Enterprise Linux 3 Media CD セット (AS、ES、または WS バージョン)

ソフトウェアのインストール

注 – Sun Installation Assistant CD を使用する場合は、手順 5 から開始してください。

注 – この手順では、テキストモードのインストール手順を示します。GUI モードでは、複数の手順が同じ画面に表示されることがあります。

1. キーボードおよびモニターを、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの適切なコネクタに接続します。
2. サーバーの電源を入れ、Red Hat Enterprise Linux 3 CD 1 を CD トレーにセットします。

サーバーが CD から起動され、boot: プロンプトが表示されます。

3. boot: プロンプトで、次のコマンドを入力します。
boot: **linux text**
4. CD 媒体のテストの実行を確認するプロンプトが表示されたら、テストを実行する場合は「OK」を、テストを省略する場合は「Skip」を選択します。
CD 媒体テストが完了すると (テストの実行を選択した場合)、Anaconda インストーラが起動します。これには数分かかります。
5. 「Welcome」画面で、「OK」を選択します。
6. プロンプトが表示されたら、次の選択を行います。
 - a. 適切な言語を選択します。
 - b. キーボードの種類を選択します。
 - c. マウスを接続していない場合は「No-mouse」を選択し、マウスを接続している場合はそのマウスが正しく検出されていることを確認します。
7. ディスクのパーティション分割の実行を確認するプロンプトが表示されたら、「Autopartition」を選択します。
既存のパーティションを保持するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
8. 「Autopartition」ダイアログボックスで次のオプションのいずれかを選択します。
 - Remove all Linux partitions on this server: サーバーを別の OS とのデュアルブート構成にし、Linux パーティションのみを置き換える場合は、このオプションを選択します。
 - Remove all partitions on this server: インストール済みの OS がある場合に、すべて削除してディスク全体を使用するには、このオプションを選択します。
 - Keep all partitions and use existing free space: すでにインストールされている OS があり、今後もその OS を利用できるようにする場合は、このオプションを選択します。
9. 「Remove all partitions on this server」を選択すると、ドライブからデータが削除されることを警告するメッセージが表示されます。「Yes」を選択します。
10. 「Partitioning」画面で、Tab キーを押して「OK」に移動し、Enter キーを押します。
設定画面の指示に従って処理を進めます。
 - a. ブートローダーを変更するには、「GRUB」または「no boot-loader」を選択します。Tab キーを押して「OK」に移動し、Enter キーを押します。
 - b. カーネルオプションを指定します。Tab キーを押して「OK」に移動し、Enter キーを押します。
 - c. ブートローダー用のパスワードを追加します。Tab キーを押して「OK」に移動し、Enter キーを押します。

- d. サーバーをデュアルブート構成にできる場合は、ブートローダーから起動する OS を選択します。Tab キーを押して「OK」に移動し、Enter キーを押します。
- e. 起動元のデバイスを選択します。Tab キーを押して「OK」に移動し、Enter キーを押します。

注 – GUI モードのインストールを実行している場合は、次の順序で設定画面が表示されます。

1. ブートローダーを変更するには、「GRUB」または「no bootloader」を選択します。「Next」をクリックします。
 2. サーバーをデュアルブート構成にできる場合は、ブートローダーから起動する OS を選択し、起動元のデバイスを選択します。「Next」をクリックします。
 3. ブートローダー用のパスワードを追加します。「Next」をクリックします。
-

11. 「Network Configuration」画面が表示されます。

組み込みの Ethernet ポートにネットワーク設定を適用できます。

DHCP 経由でサーバーにネットワーク設定を取得するか、静的なネットワーク設定情報を入力できます。

デフォルトでは、DHCP が選択されています。

注 – テキストモードのインストールでは、ネットワーク設定用の画面およびホスト名を入力する画面が表示されます。

GUI モードのインストールでは、これらのオプションがすべて同じ画面に表示されます。

12. 「Firewall Configuration」画面が表示されます。

ファイアウォール機能は、有効にも無効にも設定できます。ネットワークセキュリティを高めるため、ファイアウォール機能を有効にすることをお勧めします。

デフォルト設定では、有効になっています。

13. インストールする必要がある言語がほかにある場合は、「Language Support」画面で選択します。
14. 「Timezone」画面で、サーバーを設置した地域のタイムゾーンを選択します。
15. 「Root Password」画面で、スーパーユーザーに対して使用するパスワードを入力します。

注 – パスワードを忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になることがあります。

パッケージの選択をカスタマイズするかどうかを確認するプロンプトが表示されません。

16. 「Workstation Defaults」画面で、「Customize software selection」の横にあるボックスにチェックマークを付け、「OK」を選択します。

注 – GUI モードのインストールでは、この画面のラベルは「Package Defaults」になります。

17. 「Package Group Selection」設定画面で、自分の環境に適したパッケージを選択します。
選択項目にチェックマークを付けるには、矢印キーでカーソルをその項目に移動してから、スペースキーを押します。
18. インストールログに関するダイアログボックスを確認して、「OK」を選択します。
選択したインストール内容によって異なりますが、RPM のインストールには 10 分程度かかります。CD の交換を求めるプロンプトが表示されると、自動的に CD が排出されます。
19. CD の変更を求めるプロンプトが表示されたら、指示された CD を挿入し、「OK」を押します。
選択したインストールオプションによっては、一部の CD は不要である場合もあります。
20. プロンプトが表示されたら、次の手順を実行します。
 - a. インストーラによって検出されたデフォルトのビデオインターフェースを選択します。
 - b. インストーラで、接続しているモニターを確認し、もっとも適したものを選択します。
 - c. 「X-Customization」画面で、「Text Interface」を選択します。
21. 「Complete」ダイアログボックスで「OK」を選択します。
これでインストールが完了しました。
22. Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアを更新します。詳細は、19 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

ネットワークからの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール

ネットワークに接続された PXE サーバーから Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアをインストールする作業は、次の手順で行います。

1. PXE インストールをサポートするようにネットワークを設定します。詳細は、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」を参照してください。
2. PXE サーバーとして使用するシステム上に PXE インストールイメージを作成します。ソフトウェアは、この PXE サーバーからほかのシステム (PXE クライアント) にダウンロードされます。詳細は、15 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」を参照してください。
3. PXE サーバーから PXE クライアントに Red Hat ソフトウェアをインストールします。詳細は、18 ページの「PXE サーバーからのソフトウェアのインストール」を参照してください。
4. Red Hat ソフトウェアを更新します。詳細は、19 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

PXE インストール手順では、次のものがが必要です。

- 63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」に従って設定し、次の周辺機器を装備した DHCP サーバー
 - CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ
 - PS/2 キーボード
- モニター
- Red Hat Enterprise Linux 3 Media CD セット (AS、ES、または WS バージョン)
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成

この手順では、DHCP サーバーとして使用しているサーバーに PXE インストールイメージを作成する方法について説明します。これにより、DHCP サーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーから PXE クライアントにオペレーティングシステムファイルが提供されます。

注 – 32 ビット版のユーザーの場合: 以降の手順では、解凍されるディレクトリの名前を具体的に示していますが、いずれも 64 ビットネットワークイメージを設定する場合のものです。32 ビットネットワークイメージを設定する場合は、一部のファイルおよびディレクトリが若干異なります。

「64 ビット版」では、解凍されるディレクトリは `rhel3_64-pxefiles/` です。
「32 ビット版」では、解凍されるディレクトリは `rhel3_32-pxefiles/` です。

これ以外のディレクトリおよび指示は、64 ビット版でも 32 ビット版でもすべて同じです。

注 – この手順を開始する前に、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」の説明に従ってネットワークが設定されていることを確認してください。

1. Red Hat Enterprise Linux 3 CD 1 を DHCP/PXE サーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

次の例ではコピー先のディレクトリとして `/home/pxeboot/SunFire_rhel3/` を指定していますが、別のディレクトリを指定することもできます。この手順の例では、このディレクトリを使用します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/RedHat /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

2. 次のコマンドを使用して、初期 ramdisk およびカーネルを CD 1 から PXE イメージのベースにコピーします。

```
# cp /mnt/cdrom/images/pxeboot/initrd.img \
/home/pxeboot/SunFire_rhel3/
# cp /mnt/cdrom/images/pxeboot/vmlinuz \
/home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

3. 次のコマンドを実行して CD 1 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

4. Red Hat Enterprise Linux 3 CD 2 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/RedHat /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

既存のファイルを上書きするかどうかを確認するプロンプトが表示された場合は、**y** を入力して上書きします。

5. 次のコマンドを実行して CD 2 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

6. Red Hat Enterprise Linux 3 CD 3 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/RedHat /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

既存のファイルを上書きするかどうかを確認するプロンプトが表示された場合は、**y** を入力して上書きします。

7. 次のコマンドを実行して CD 3 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

8. Red Hat Enterprise Linux 3 CD 4 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/RedHat /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

既存のファイルを上書きするかどうかを確認するプロンプトが表示された場合は、**y** を入力して上書きします。

9. 次のコマンドを実行して CD 4 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

10. 次のコマンドを入力して、kickstart ファイル `ks.cfg` を PXE サーバーにコピーします。

```
# cp /tmp/rhel3_64-pxefiles/ks.cfg /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

11. SCSI ドライバおよびネットワークドライバを一時ディレクトリから次のディレクトリにコピーします。

```
# cp /tmp/rhel3_64-pxefiles/bcm* /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
# cp /tmp/rhel3_64-pxefiles/lsi* /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

12. PXE サーバー上で、kickstart ファイル `/home/pxeboot/SunFire_rhel3/ks.cfg` の `nfs` 行を次のように変更して保存します。

```
nfs --server n.n.n.n --dir /home/pxeboot/SunFire_rhel3/
```

`n.n.n.n` は、PXE サーバーの IP アドレスです。 `--dir` のあとに指定されている保存場所がイメージの最上位を指していることを再確認します。

13. PXE サーバー上で、`/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` ファイルに次のエンタリを追加して保存します。

`append ksdevice` から `ks.cfg` までのテキストブロックは、改行なしの一続きの文字列として入力してください。

```
default SunFire_rhel3
label SunFire_rhel3
kernel SunFire_rhel3/vmlinuz

append ksdevice=eth0 console=tty0
load_ramdisk=1 initrd=SunFire_rhel3/initrd.img network
ks=nfs:n.n.n.n:/home/pxeboot/SunFire_rhel3/ks.cfg
```

`n.n.n.n` は、PXE サーバーの IP アドレスです。

注 – コンソールベースのインストールでは、`append` 行に `console=ttyS0,19200` を追加してください。

PXE サーバーからのソフトウェアのインストール

この手順では、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーから要求を開始し、起動イメージファイルを PXE/DHCP サーバーからダウンロードし、要求元のサーバーに Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

注 – この手順では、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」および 15 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の説明に従って、ネットワークおよび PXE サーバーインストールイメージがあらかじめ設定されていることを前提としています。

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。
PXE クライアントとは、Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール先の Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーを指します。
2. PXE クライアントにネットワーク起動を求めるプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得しようとします。
3. F8 キーを押して、PXE 起動イメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトが表示されたら、15 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の手順 13 でイメージに指定したラベルを入力します。
Red Hat Enterprise Linux 3 インストールイメージが、指定の Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーにダウンロードされます。
5. 使用しているサーバーに Linux オペレーティングシステムを設定する手順については、Red Hat Enterprise Linux 3 メディアキットに付属のマニュアルを参照してください。
6. 19 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」に進みます。

オペレーティングシステムおよびドライバの更新

CD 媒体に収録されているソフトウェアが最新のバージョンではない場合があります。この媒体のリリース以降に、ソフトウェアに対して多くの更新が行われています。

Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアの更新手順については、次の節を参照してください。

- 19 ページの「Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアの更新」
- 19 ページの「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」

Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアの更新

CD 媒体に収録されているソフトウェアは、最新のバージョンではありません。この媒体のリリース以降に、Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアに対して多くの更新が行われています。システムをセキュリティ上の脅威から保護し、安定性を向上させるため、システムのインストールの完了後に `up2date` プログラムを実行する必要があります。

`up2date` プログラムの設定については、Red Hat Enterprise Linux 3 メディアキットに収録されている Red Hat マニュアルを参照してください。`up2date` の実行時に、利用可能なパッケージ更新のセクションでカーネルパッケージを選択します。`up2date` の完了後に、サーバーを再起動します。

SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード

システムにインストールされているカーネルには、Sun が推奨する最適なドライバが含まれていない場合もあります。ドライバを更新すると、確実に適切なシステムパフォーマンスが得られます。

次に示す手順では、Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD から最新のドライバをコピーする方法について説明します。ドライバ RPM は、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの製品ページからダウンロードすることもできます。どちらのサーバーにも対応している URL は、次のとおりです。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

1. 次のコマンドを実行して、現在システムにインストールされているカーネルを調べます。

```
# rpm -qa | grep ^kernel
```

次のような出力が得られます。

```
kernel-2.4.21-4.EL.x86_64
kernel-smp-2.4.21-4.EL.x86_64
kernel-source-2.4.21-4.EL.x86_64
```

この例では、2.4.21-4.EL.x86_64 カーネルが動作しています。

2. Documentation and Support Files CD をサーバーに挿入します。
3. 次のコマンドを入力して、CD をマウントし、Ethernet ドライバおよび SCSI ドライバのディレクトリに移動します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/support/drivers/rhel3/64/
```

注 – Red Hat Enterprise Linux の 32 ビット版を使用している場合は、次のディレクトリに移動してください。

```
/mnt/cdrom/support/drivers/rhel3/32/
```

4. 手順 1 で調べたカーネルのバージョンに対応するドライバ RPM を調べます。

RPM のファイル名には、カーネルのバージョンと種類が含まれています。たとえば、手順 1 に示したカーネルのバージョンの場合、Ethernet ドライバ (bcm5700) および SCSI ドライバ (lsi) は次のようになります。

```
bcm5700-7.1.22_2.4.21_4.EL-rhel3_1.x86_64.rpm
bcm5700-smp-7.1.22_2.4.21_4.EL-rhel3_1.x86_64.rpm
lsi-2.05.11_2.4.21_4.EL-rhel3_1.x86_64.rpm
lsi-smp-2.05.11_2.4.21_4.EL-rhel3_1.x86_64.rpm
```

5. 次のコマンドを実行して、RPM ファイルをインストールします。

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/support/drivers/rhel3/64/bcm5700-drivers.rpm
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/support/drivers/rhel3/64/lsi-drivers.rpm
```

bcm5700-drivers および *lsi-drivers* は、それぞれ、手順 4 で調べた適切な Ethernet ドライバおよび SCSI ドライバの RPM ファイルです。

注 – 動作しているカーネルに適したドライバのアーキテクチャーを選択してください。たとえば、i686 カーネルが動作している場合は、末尾が *.i686.rpm* の正しいドライバ RPM を選択してください。

注 – 次に、NPS ドライバをインストールする手順を示します。NPS ドライバには、JNET ドライバおよびマシンチェックカーネルドライバのほか、POCI および監視デーモンも含まれています。サーバーのサービスプロセッサに対してハードウェア監視、OS 状態レポート、および SNMP プロキシサービスを使用可能にするには、このソフトウェアが必要です。

6. 使用しているオペレーティングシステムのバージョンおよびアーキテクチャーに対応する NPS RPM を Documentation and Support Files CD で探します。

NPS RPM ファイルは、CD の最上位パス (*/support/sysmgmt/*) 内の OS 別のディレクトリに収録されています。

7. 次のコマンドを入力して、NPS RPM をインストールします。

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/support/sysmgmt/redhat/rhel3/nps-V2.rpm
```

nps-V2 は、NPS RPM ファイルのバージョンおよびアーキテクチャーを表します。

この方法以外に、次のコマンドを入力して、ソースから NPS RPM をコンパイルしてインストールすることもできます。

```
# cd /usr/src/redhat
# tar -xvf /mnt/cdrom/support/sysmgmt/src/nps-V2*.tar.gz
# rpm -bb SPECS/nps.spec
# rpm -ivh `find ./RPMS | grep nps`
```

注 – Linux 系システムの中には、rpm コマンドではなく、rpmbuild コマンドが必要なものもあります。使用しているバージョンの Linux のマニュアルで確認してください。

8. インストールが正常に完了したら、次のコマンドを実行してシステムを再起動します。

```
# reboot
```


第4章

SUSE Linux Enterprise Server 8 (SLES 8) ソフトウェアのインストール

この章では、Sun Fire V20 サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーで SUSE Linux Enterprise Server 8 (SLES 8) ソフトウェアをインストールおよび更新する方法について説明します。2 種類のサーバー間で手順が異なる場合は、その違いを明記していません。

注 – この章のシステム管理手順は、基本的な Linux 管理またはそれ以上の経験があるユーザーを対象としています。

注 – Sun Installation Assistant では、現在、サービスパックの処理に問題があるため、SUSE Linux Enterprise Server 8 (64 ビット) のインストールをサポートしていません。Sun Installation Assistant の今後の更新では、SLES8 インストールがサポートされ、オンラインで入手できるようになる予定です。

この章では、次の内容について説明します。

- 24 ページの「CD からの SUSE Linux Enterprise Server 8 のインストール」
- 28 ページの「ネットワークからの SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアのインストール」
- 34 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」

CD からの SUSE Linux Enterprise Server 8 のインストール

この節では、SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアを SUSE Linux Enterprise Server 8 CD 媒体セットからインストールする方法について説明します。

CD からのインストールは、次の手順で行います。

1. SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアをインストールします。詳細は、25 ページの「ソフトウェアのインストール」を参照してください。
2. SUSE Linux Enterprise ソフトウェアを更新します。詳細は、34 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

CD からのインストール手順では、次のものがが必要です。

- 次の周辺機器を装備した Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバー
 - CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ
 - PS/2 キーボード
 - PS/2 マウス
- モニター
- SUSE Linux Enterprise Server 8 Media CD セット。内容は、次のとおりです。
 - SUSE Linux Enterprise Server CD が 1 枚
 - UnitedLinux 1.0 CD が 3 枚
 - United Linux Service Pack 3 CD が 2 枚
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

注 – インストールにはマウスを使用することをお勧めしますが、必須ではありません。マウスを使用しない場合は、Tab キーを使用して選択項目を切り替えることができます。

ソフトウェアのインストール

1. キーボードおよびモニターを、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの適切なコネクタに接続します。
2. サーバーの電源を入れ、SUSE Linux Enterprise Server 8 CD 1 をサーバーに挿入します。
サーバーが CD から起動され、画面にインストールオプションが表示されます。
3. インストールオプションを選択し (デフォルト設定を推奨)、Enter キーを押します。
Enter キーを押さないと、画面がタイムアウトしてデフォルト設定が使用されます。

注 – 選択画面に表示されたキーボードの対応するファンクションキーを押すと、インストーラのビデオ解像度を変更できます。

4. 適切な言語を選択し、「Accept」を選択します。
この選択が終わると、インストーラは推奨設定を取得するためにサーバーを検索します。
5. 新しいインストールを実行するかどうかを確認するダイアログボックスが表示された場合は、「New Installation」を選択してから「OK」を選択します。
推奨設定が「Installation Settings」画面に表示されます。
6. 表示された設定が現在の環境に適している場合は、「Accept」を選択します。適していない場合は、変更するコンポーネントを選択し、必要な変更を加えます。
ほとんどのユーザーは、デフォルト設定のままで問題ありません。個々のコンポーネントの変更に関する詳細は、『SUSE Linux Enterprise Server 8 Installation Guide』を参照してください。
7. インストールの開始を確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」を選択します。
8. CD の交換を求めるプロンプトが表示されたら、ドライブから CD を取り出し、指示された CD を挿入して「OK」を押します。
選択したインストールオプションによっては、一部の CD は不要である場合もあります。選択したインストール内容によって異なりますが、RPM のインストールには 15 分程度かかります。
基本システムのインストールが正常に終了すると、挿入した媒体の取り出しを求めるダイアログボックスが表示されます。
9. 挿入した媒体を取り出し、「OK」を選択します。
システムの再起動が終了すると、スーパーユーザー用パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

10. スーパーユーザーに対して使用するパスワードを入力します。

注 - パスワードを忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になることがあります。

新しいユーザーの追加を確認するプロンプトが表示されます。

11. ここでほかにもユーザーを追加できますが、これ以上ユーザーを追加しない場合は「Next」を選択します。
12. デスクトップ設定メニューで、「Text mode only」を選択し、「Accept」を押します。
インストーラによって構成ファイルがいくつか作成され、インストール設定に進みます。
13. プリンタ検出の実行を確認するプロンプトが表示されたら、「Skip detection」を選択します。
14. 「Installation Settings」画面で設定情報を確認し、「Next」を選択します。
15. 設定情報が保存されたら、「OK」を選択します。
これでインストールが完了しました。
16. スーパーユーザーとしてログインします。
17. United Linux 1.0 Service Pack 3 CD 1 をサーバーに挿入します。
18. 次のコマンドを入力して、United Linux 1.0 Service Pack 3 CD 1 をマウントします。

```
# mount /media/cdrom
```
19. 次のコマンドを入力して、カーネルを更新します。

```
# rpm -Uvh /media/cdrom/x86_64/update/UnitedLinux/1.0/ \
rpm/x86_64/k_smp-2.4.21-127.x86_64.rpm
```
20. 次のコマンドを入力して、United Linux 1.0 Service Pack 3 CD 1 のマウントを解除します。

```
# umount /media/cdrom
```

インストール設定によっては Installation Failed メッセージが表示されることもあります。次の手順で YaST の Patch CD Update ユーティリティを実行する前にカーネルを更新しておく、これを回避できます。

21. 次のコマンドを実行して、YaST 管理プログラムを起動します。

```
# yast
```

22. YaST プログラムの「Software」メニューから「Patch CD Update」を選択します。

注 – このアップデートユーティリティーの実行には、インターネット接続が必要になることがあります。

23. 「Installation Source」で Alt+E キーを押して、「Expert」を選択します。

24. 「Type」メニューから「CD」を選択します。

25. 「CD Installation」メニューから「'/dev/cdrom'」を選択します。

26. 「Next」を選択して更新を開始します。

アップデートユーティリティーが CD 媒体を走査し、検出した更新内容をインストールします。

注 – 更新処理中に、なんらかの操作を求めるプロンプトが表示されることがあります。表示されたダイアログを確認し、「OK」を選択して処理を続けます。

27. 更新処理が完了したら、アップデートユーティリティーおよび YaST プログラムを終了します。

28. 次のコマンドを実行して、サーバーを再起動します。

```
# reboot
```

29. 34 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」に進みます。

ネットワークからの SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアのインストール

ネットワーク接続された PXE サーバーから SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアをインストールする作業は、次の手順で構成されます。

1. PXE インストールをサポートするようにネットワークを設定します。詳細は、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」を参照してください。
2. PXE サーバーとして使用するシステム上に PXE インストールイメージを作成します。ソフトウェアは、この PXE サーバーからほかのシステム (PXE クライアント) にダウンロードされます。詳細は、29 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」を参照してください。
3. PXE サーバーから PXE クライアントに SUSE Linux ソフトウェアをインストールします。詳細は、33 ページの「PXE サーバーからのソフトウェアのインストール」を参照してください。
4. SUSE Linux ソフトウェアを更新します。詳細は、34 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

PXE インストール手順では、次のものがが必要です。

- 63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」に従って設定し、次の周辺機器を装備した DHCP サーバー
 - CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ
 - PS/2 キーボード
- モニター
- SUSE Linux Enterprise Server 8 Media CD セット
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成

この手順では、DHCP サーバーとして使用しているシステム上に PXE インストールイメージを作成する方法について説明します。これにより、DHCP サーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーから PXE クライアントにオペレーティングシステムファイルが提供されます。

注 – この手順を開始する前に、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」の説明に従ってネットワークが設定されていることを確認してください。

1. SUSE Linux Enterprise Server 8 (Service Pack 3 を含む) を保持するためのディレクトリ構造を設定します。

次の例ではコピー先のディレクトリとして `/home/pxeboot/SunFire_sles8/` を指定していますが、別のディレクトリを指定することもできます。この手順の例では、このディレクトリを使用します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/CD1
# mkdir -p /home/pxeboot/SunFire_sles8/ \
  unitedlinux-x86_64/CD{1,2,3}
# mkdir -p /home/pxeboot/SunFire_sles8/sp3-x86_64/CD{1,2}
```

2. SUSE Linux Enterprise Server 8 CD をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
  /home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/CD1
```

3. 次のコマンドを実行して SUSE Linux Enterprise Server 8 CD のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

4. UnitedLinux 1.0 CD 1 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
  /home/pxeboot/SunFire_sles8/unitedlinux-x86_64/CD1
```

5. 次のコマンドを実行して UnitedLinux 1.0 CD 1 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

6. UnitedLinux 1.0 CD 2 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles8/unitedlinux-x86_64/CD2
```

7. 次のコマンドを実行して UnitedLinux 1.0 CD 2 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

8. UnitedLinux 1.0 CD 3 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles8/unitedlinux-x86_64/CD3
```

9. 次のコマンドを実行して UnitedLinux 1.0 CD 3 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

10. UnitedLinux Service Pack 3 CD 1 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles8/sp3-x86_64/CD1
```

11. 次のコマンドを実行して UnitedLinux Service Pack 3 CD 1 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

12. UnitedLinux Service Pack 3 CD 2 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles8/sp3-x86_64/CD2
```

13. 次のコマンドを実行して UnitedLinux Service Pack 3 CD 2 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

14. 次のコマンドを入力して、クライアントシステムが起動する起動環境を設定します。

```
# cd /home/pxeboot/SunFire_sles8/
# ln -s sles8-x86_64/CD1/boot .
```

15. 次のコマンドを入力して、コンテンツおよび媒体用のディレクトリを設定します。

```
# ln -s sles8-x86_64/CD1/content .
# ln -s sles8-x86_64/CD1/media.1 .
```

16. 次のコマンドを入力して、適切なコンテンツファイルと instorder ファイルを設定します。

```
# mkdir yast
# cp /tmp/sles8-pxefiles/order yast/
# cp /tmp/sles8-pxefiles/instorder yast/
```

17. 次のコマンドを入力して、autoinst.xml ファイルを /tmp/sles8-pxefiles/ ディレクトリから PXE イメージのルートにコピーします。

```
# cp /tmp/sles8-pxefiles/autoinst.xml \
/home/pxeboot/SunFire_sles8/
```

18. PXE サーバー上で、/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default ファイルに次のエントリを追加して保存します。

append から autoinst.xml までのテキストブロックは、改行なしの一続きの文字列として入力してください。

```
default SunFire_sles8
label SunFire_sles8
kernel SunFire_sles8/boot/loader/linux

append textmode=1
initrd=SunFire_sles8/boot/loader/initrd
install=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/SunFire_sles8 insmod=bcm5700
autoyast=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/SunFire_sles8/autoinst.xml
```

n.n.n.n は、PXE サーバーの IP アドレスです。

注 – コンソールベースのインストールでは、append 行に **console=ttyS0,19200** を追加してください。

19. 次のコマンドを入力して、Ethernet RPM および SCSI RPM を適切なディレクトリにコピーします。

```
# cp /tmp/sles8-pxefiles/*.x86_64.rpm \
/home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/CD1/suse/x86_64/
```

20. 次のコマンドを入力して、RPM 選択ファイルを適切なディレクトリにコピーします。

構築中のシステムが単一プロセッサシステムの場合は、次のコマンドを入力します。

```
# cp /tmp/sles8-pxefiles/Sunfire.sel.up \  
/home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/ \  
CD1/suse/setup/descr/Sunfire.sel
```

構築中のシステムが複数のプロセッサを搭載している場合は、次のコマンドを入力します。

```
# cp /tmp/sles8-pxefiles/Sunfire.sel.smp \  
/home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/ \  
CD1/suse/setup/descr/Sunfire.sel
```

21. 次のコマンドを入力して、パッケージ説明ファイルを更新します。

```
# cd /home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/CD1/suse/  
  
# /usr/lib/YaST2/bin/create_package_descr \  
-d /home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/CD1/suse/ \  
-l english
```

注 - create_package_descr プログラムが見つからない場合は、autoyast2 package をインストールしてください。

22. 次のコマンドを入力して、入手可能なパッケージのリストを修正します。

```
# echo "Sunfire.sel" \  
/home/pxeboot/SunFire_sles8/sles8-x86_64/ \  
CD1/suse/setup/descr/selections
```

これにより、追加した新しい選択パッケージがインストーラに認識されるようになります。

PXE サーバーからのソフトウェアのインストール

この手順では、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーから要求を開始し、起動イメージファイルを PXE/DHCP サーバーからダウンロードし、要求元のサーバーに SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

注 – この手順では、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」および 29 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の説明に従って、ネットワークおよび PXE サーバーインストールイメージがあらかじめ設定されていることを前提としています。

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。
PXE クライアントとは、SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアのインストール先の Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーを指します。
2. PXE クライアントにネットワーク起動を求めるプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得しようとします。
3. F8 キーを押して、PXE 起動イメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトが表示されたら、29 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の手順 18 でイメージに指定したラベルを入力します。
SUSE Linux Enterprise Server 8 インストールイメージが、指定の Sun Fire V20z サーバーにダウンロードされます。
5. 使用しているサーバーに Linux オペレーティングシステムを設定する手順については、SUSE Linux Enterprise Server 8 メディアキットに付属のマニュアルを参照してください。
6. 34 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」に進みます。

オペレーティングシステムおよびドライバの更新

CD 媒体に収録されているソフトウェアが最新のバージョンではない場合があります。この媒体のリリース以降に、SUSE Linux Enterprise Server ソフトウェアに対して多くの更新が行われています。

SUSE Linux Enterprise 8 ソフトウェアの更新手順については、次の手順を参照してください。

- 34 ページの「SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアの更新」
- 35 ページの「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」

SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアの更新

システムをセキュリティ上の脅威から保護し、安定性を向上させるため、システムのインストールの完了後に `yast2` プログラムを実行する必要があります。YaST オンラインアップデートの詳細は、SUSE Linux Enterprise Server 8 のマニュアルを参照してください。

次の手順は、システムがインターネット接続用に構成されていることを前提としています。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを実行します。
`# yast2 online_update`
3. 画面上の指示に従います。

注 – 更新の一部として新しいカーネルがインストールされる場合、一部のドライバがダウングレードされることがあります。ドライバのアップグレードについては、35 ページの「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」を参照してください。

SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード

システムにインストールされているカーネルには、Sun が推奨する最適なドライバが含まれていない場合もあります。ドライバを更新すると、確実に適切なシステムパフォーマンスが得られます。

次に示す手順では、Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD から最新のドライバをコピーする方法について説明します。ドライバ RPM は、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの製品ページからダウンロードすることもできます。どちらのサーバーにも対応している URL は、次のとおりです。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

1. 次のコマンドを実行して、現在システムにインストールされているカーネルを調べます。

```
# rpm -qa | grep ^k_
```

次のような出力が得られます。

```
k_default_2.4.21-127
```

2. Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーに、Documentation and Support Files CD を挿入します。
3. 次のコマンドを入力して、CD をマウントし、Ethernet ドライバおよび SCSI ドライバのディレクトリに移動します。

```
# mount /media/cdrom
```

```
# cd /media/cdrom/support/drivers/suse/sles8/
```

4. 手順 1 で調べたカーネルのバージョンに対応するドライバ RPM を調べます。

RPM のファイル名には、カーネルのバージョンと種類が含まれています。たとえば、手順 1 に示したカーネルのバージョンの場合、Ethernet ドライバ (bcm5700) および SCSI ドライバ (lsi) は次のようになります。

```
bcm5700-default-7.0.0_2.4.21_127-sles8_1.x86_64.rpm
```

```
lsi-default-2.05.06_2.4.21_127-sles8_1.x86_64.rpm
```

2.4.21_127 は、k_default_2.4.21-127 に対応するカーネル番号です。

5. 次のコマンドを実行して、RPM ファイルをインストールします。

```
# rpm -Uvh /media/cdrom/support/drivers/suse/sles8/bcm5700-driver.rpm
# rpm -Uvh /media/cdrom/support/drivers/suse/sles8/lsi-driver.rpm
```

bcm5700-driver および *lsi-driver* は、それぞれ、手順 4 で調べた適切な Ethernet ドライバおよび SCSI ドライバの RPM ファイルです。

注 – 次に、NPS ドライバをインストールする手順を示します。NPS ドライバには、JNET ドライバおよびマシンチェックカーネルドライバのほか、POCI および監視デーモンも含まれています。サーバーのサービスプロセッサに対してハードウェア監視、OS 状態レポート、および SNMP プロキシサービスを使用可能にするには、このソフトウェアが必要です。

6. 使用しているオペレーティングシステムのバージョンおよびアーキテクチャーに対応する NPS RPM を Documentation and Support Files CD で探します。

NPS RPM ファイルは、CD の最上位パス (/support/sysmgmt/) 内の OS 別のディレクトリに収録されています。

7. 次のコマンドを入力して、NPS RPM をインストールします。

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/support/sysmgmt/suse/sles8/nps-V2.rpm
```

nps-V2 は、NPS RPM ファイルのバージョンおよびアーキテクチャーを表しています。

この方法以外に、次のコマンドを入力して、ソースから NPS RPM をコンパイルしてインストールすることもできます。

```
# cd /usr/src/packages
# tar -xvf /mnt/cdrom/support/sysmgmt/src/nps-V2*.tar.gz
# rpm -bb SPECS/nps.spec
# rpm -ivh `find ./RPMS | grep nps`
```

注 – Linux 系システムの中には、rpm コマンドではなく、rpmbuild コマンドが必要なものもあります。使用しているバージョンの Linux のマニュアルで確認してください。

8. インストールが正常に完了したら、次のコマンドを実行してシステムを再起動します。

```
# reboot
```

第5章

SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES 9) ソフトウェアのインストール

この章では、Sun Fire V20 サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーで SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES 9) ソフトウェアをインストールおよび更新する方法について説明します。2 種類のサーバー間で手順が異なる場合は、その違いを明記していません。

注 – この章のシステム管理手順は、基本的な Linux 管理またはそれ以上の経験があるユーザーを対象としています。

注 – オペレーティングシステムをインストールするときは、Sun Installation Assistant CD を使用すると便利です。Sun Installation Assistant は、SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレードも行います。

この章では、次の内容について説明します。

- 38 ページの「CD からの SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストール」
- 42 ページの「ネットワークからの SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアのインストール」
- 47 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」

CD からの SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストール

この節では、SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアを SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 媒体セットからインストールする方法について説明します。

CD からのインストールは、次の手順で構成されます。

1. SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアをインストールします。詳細は、39 ページの「ソフトウェアのインストール」を参照してください。
2. SUSE Linux Enterprise ソフトウェアを更新します。詳細は、47 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

CD からのインストール手順では、次のものがが必要です。

- 次の周辺機器を装備した Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバー
 - CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ
 - PS/2 キーボード
 - PS/2 マウス
- モニター
- SUSE Linux Enterprise Server 9 Media CD セット。内容は、次のとおりです。
 - SUSE Linux Enterprise Server CD が 6 枚
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

注 – インストールにはマウスを使用することをお勧めしますが、必須ではありません。マウスを使用しない場合は、Tab キーを使用して選択項目を切り替えることができます。

ソフトウェアのインストール

注 – Sun Installation Assistant CD を使用する場合は、手順 5 から開始してください。

1. キーボードおよびモニターを、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの適切なコネクタに接続します。
2. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 1 を挿入し、サーバーを起動します。
サーバーが CD から起動します。SLES9 ブートローダーの画面に多数のインストールオプションが表示されます。

注 – 選択画面に表示されたキーボードの対応するファンクションキーを押すと、インストーラのビデオ解像度を変更できます。

3. SLES9 ブートローダーから「Installation」を選択します。
Enter キーを押さないと、画面がタイムアウトしてデフォルト設定が使用されます。
4. Novell ソフトウェアライセンス条項に目を通します。条件に同意する場合は、「Accept」を選択します。
5. 適切な言語を選択し、「Accept」を選択します。
この選択が終わると、インストーラは推奨設定を取得するためにサーバーを検索します。
6. 新しいインストールを実行するかどうかを確認するダイアログボックスが表示された場合は、「New Installation」を選択してから「OK」を選択します。
推奨設定が「Installation Settings」画面に表示されます。
7. 表示された設定が現在の環境に適している場合は、「Accept」を選択します。適していない場合は、変更するコンポーネントを選択し、必要な変更を加えます。
ほとんどのユーザーは、デフォルト設定のままで問題ありません。個々のコンポーネントの変更に関する詳細は、『SUSE Linux Enterprise Server 9 Installation Guide』を参照してください。
8. インストールの開始を確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」を選択します。

9. CD の交換を求めるプロンプトが表示されたら、ドライブから CD を取り出し、指示された CD を挿入して「OK」を押します。

選択したインストールオプションによっては、一部の CD は不要である場合もあります。選択したインストール内容によって異なりますが、RPM のインストールには 15 分程度かかります。

基本システムのインストールが正常に終了すると、挿入した媒体の取り出しを求めるダイアログボックスが表示されます。

注 – Sun Installation Assistant CD を使用している場合は、Assistant GUI がふたたび表示され、適切なドライブが自動的にインストールされます。完了すると、Assistant によってサーバーの再起動を求めるプロンプトが表示されます。

10. 挿入した媒体を取り出し、「OK」を選択します。

システムの再起動が終了すると、スーパーユーザー用パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

11. スーパーユーザーに対して使用するパスワードを入力します。

注 – パスワードを忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になることがあります。

インストーラによって、ネットワーク設定の確認を求めるプロンプトが表示されません。

12. インストールでの必要に応じてパラメタを調整し、「Accept」を選択します。

インターネット接続のテストの実行を確認するプロンプトが表示されます。この手順は省略することをお勧めします。

13. 適切なオプションを選択してこの手順を省略します。

14. 次に「Service Configuration」を設定します。ここでは、信頼できる証明書を設定できません。

詳細は、『SUSE Linux Enterprise Server 9 Installation Guide』を参照してください。

15. 次に、認証方法を選択します。

ネットワーク設定に基づいて、次のいずれかを選択します。

- NIS
- LDAP
- /etc/passwd

16. ここでほかにもユーザーを追加できますが、これ以上ユーザーを追加しない場合は「Next」を選択します。

17. SUSE Linux Enterprise Server 9 のリリースノートが表示されます。リリースノートを確認し、「Accept」を選択します。
ハードウェア構成が表示されます。ここでは、ビデオサブシステムなどハードウェア関連のシステムを変更できます。
18. 必要に応じてハードウェア構成を変更し、「Accept」を選択します。
表示されたパラメタに問題がない場合は、「Accept」を選択します。
19. 「Finish」を選択します。
これでインストールが完了しました。
20. 47 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」に進みます。

ネットワークからの SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアのインストール

ネットワーク接続された PXE サーバーから SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアをインストールする作業は、次の手順で行います。

1. PXE インストールをサポートするようにネットワークを設定します。詳細は、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」を参照してください。
2. PXE サーバーとして使用するシステム上に PXE インストールイメージを作成します。ソフトウェアは、この PXE サーバーからほかのシステム (PXE クライアント) にダウンロードされます。詳細は、43 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」を参照してください。
3. PXE サーバーから PXE クライアントに SUSE Linux ソフトウェアをインストールします。詳細は、46 ページの「PXE サーバーからのソフトウェアのインストール」を参照してください。
4. SUSE Linux ソフトウェアを更新します。詳細は、47 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

PXE インストール手順では、次のものがが必要です。

- 63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」に従って設定し、次の周辺機器を装備した DHCP サーバー
 - CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ
 - PS/2 キーボード
- モニター
- SUSE Linux Enterprise Server 9 Media CD セット
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成

この手順では、DHCP サーバーとして使用しているシステム上に PXE インストールイメージを作成する方法について説明します。これにより、DHCP サーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーから PXE クライアントにオペレーティングシステムファイルが提供されます。

注 – この手順を開始する前に、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」の説明に従ってネットワークが設定されていることを確認してください。

1. SUSE Linux Enterprise Server 9 を保持するためのディレクトリ構造を設定します。

次の例ではコピー先のディレクトリとして `/home/pxeboot/SunFire_sles9/` を指定していますが、別のディレクトリを指定することもできます。この手順の例では、このディレクトリを使用します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/SunFire_sles9/sles9/CD1
# mkdir -p /home/pxeboot/SunFire_sles9/core9/CD{1,2,3,4,5}
```

2. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 1 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/sles9/CD1
```

3. 次のコマンドを実行して SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 1 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

4. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 2 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/core9/CD1
```

5. 次のコマンドを実行して SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 2 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

6. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 3 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/core9/CD2
```

7. 次のコマンドを実行して SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 3 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

8. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 4 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/core9/CD3
```

9. 次のコマンドを実行して SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 4 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

10. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 5 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/core9/CD4
```

11. 次のコマンドを実行して SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 5 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

12. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 6 をサーバーに挿入し、次のコマンドを入力して CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
# cp -a /media/cdrom/* \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/core9/CD5
```

13. 次のコマンドを実行して SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 6 のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

14. 次のコマンドを入力して、クライアントシステムが起動する起動環境を設定します。

```
# cd /home/pxeboot/SunFire_sles9/
# ln -s sles9/CD1/boot .
```

15. 次のコマンドを入力して、コンテンツおよび媒体用のディレクトリを設定します。

```
# ln -s sles9/CD1/content .
# ln -s sles9/CD1/media.1 .
# ln -s sles9/CD1/control.xml .
```

16. 次のコマンドを入力して、適切なコンテンツファイルと instorder ファイルを設定します。

```
# mkdir yast
# cp /tmp/sles9-pxefiles/order yast/
# cp /tmp/sles9-pxefiles/instorder yast/
```

17. 次のコマンドを入力して、autoinst.xml ファイルを /tmp/sles9-pxefiles/ ディレクトリから PXE イメージのルートにコピーします。

```
# cp /tmp/sles9-pxefiles/autoinst.xml \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/
```

18. PXE サーバー上で、/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default ファイルに次のエンタリを追加して保存します。

append から autoinst.xml までのテキストブロックは、改行なしの一続きの文字列として入力してください。

```
default SunFire_sles9
label SunFire_sles9
kernel SunFire_sles9/boot/loader/linux

append textmode=1
initrd=SunFire_sles9/boot/loader/initrd
install=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/SunFire_sles9 insmod=bcm5700
autoyast=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/SunFire_sles9/autoinst.xml
```

n.n.n.n は、PXE サーバーの IP アドレスです。

注 – コンソールベースのインストールでは、append 行に **console=ttyS0,19200** を追加してください。

19. 更新した Ethernet および SCSI ドライバ RPM の保存先のディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/SunFire_sles9/rpms
```

20. 次のコマンドを入力して、Ethernet RPM および SCSI RPM をこの新しいディレクトリにコピーします。

```
# cp /tmp/sles9-pxefiles/*.x86_64.rpm \
/home/pxeboot/SunFire_sles9/rpms/
```

PXE サーバーからのソフトウェアのインストール

この手順では、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーから要求を開始し、起動イメージファイルを PXE/DHCP サーバーからダウンロードし、要求元のサーバーに SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

注 – この手順では、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」および 43 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の説明に従って、ネットワークおよび PXE サーバーインストールイメージがあらかじめ設定されていることを前提としています。

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。
PXE クライアントとは、SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアのインストール先の Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーを指します。
2. PXE クライアントにネットワーク起動を求めるプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得しようとします。
3. F8 キーを押して、PXE 起動イメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトが表示されたら、43 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の手順 18 でイメージに指定したラベルを入力します。
SUSE Linux Enterprise Server 9 インストールイメージが、指定の Sun Fire V20z サーバーにダウンロードされます。
5. 使用しているサーバーに Linux オペレーティングシステムを設定する手順については、SUSE Linux Enterprise Server 9 メディアキットに付属のマニュアルを参照してください。
6. 47 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」に進みます。

オペレーティングシステムおよびドライバの更新

CD 媒体に収録されているソフトウェアが最新のバージョンではない場合があります。この媒体のリリース以降に、SUSE Linux Enterprise Server ソフトウェアに対して多くの更新が行われています。

SUSE Linux Enterprise 9 ソフトウェアの更新手順については、次の手順を参照してください。

- 47 ページの「SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアの更新」
- 48 ページの「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」

SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアの更新

システムをセキュリティ上の脅威から保護し、安定性を向上させるため、システムのインストールの完了後に `yast2` プログラムを実行する。YaST オンラインアップデートの詳細は、SUSE Linux Enterprise Server 9 のマニュアルを参照してください。

次の手順は、システムがインターネット接続用に構成されていることを前提としています。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを実行します。
`# you`
3. 画面の指示に従います。

注 – 更新の一部として新しいカーネルがインストールされる場合、一部のドライバがダウングレードされることがあります。ドライバのアップグレードについては、48 ページの「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」を参照してください。

SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード

システムにインストールされているカーネルには、Sun が推奨する最適なドライバが含まれていない場合もあります。ドライバを更新すると、確実に適切なシステムパフォーマンスが得られます。

次に示す手順では、Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD から最新のドライバをコピーする方法について説明します。ドライバ RPM は、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの製品ページからダウンロードすることもできます。どちらのサーバーにも対応している URL は、次のとおりです。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

1. 次のコマンドを実行して、現在システムにインストールされているカーネルを調べます。

```
# rpm -qa | grep kernel
```

次のような出力が得られます。

```
kernel-smp-2.6.5-7.97
```

2. Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーに、Documentation and Support Files CD を挿入します。
3. 次のコマンドを入力して、CD をマウントし、Ethernet ドライバおよび SCSI ドライバのディレクトリに移動します。

```
# mount /media/cdrom
```

```
# cd /media/cdrom/support/drivers/suse/sles9_64/
```

4. 手順 1 で調べたカーネルのバージョンに対応するドライバ RPM を調べます。

RPM のファイル名には、カーネルのバージョンと種類が含まれています。たとえば、手順 1 に示したカーネルのバージョンの場合、Ethernet ドライバ (bcm5700) および SCSI ドライバ (mptlinux) は次のようになります。

```
bcm5700-smp-7.3.5_2.6.5_7.97-sles9_2.x86_64.rpm
```

```
mptlinux-smp-3.01.14.23_2.6.5_7.97-sles9_1.x86_64.rpm
```

2.6.5_7.97 は、kernel-smp-2.6.5-7.97 に対応するカーネル番号です。

5. 次のコマンドを実行して、RPM ファイルをインストールします。

```
# rpm -Uvh  
/media/cdrom/support/drivers/suse/sles9_64/broadcom/bcm5700-driver.rpm
```

```
# rpm -Uvh  
/media/cdrom/support/drivers/suse/sles9_64/lsi/mptlinux-driver.rpm
```

bcm5700-driver および *mptlinux-driver* は、それぞれ、手順 4 で調べた適切な Ethernet ドライバおよび SCSI ドライバの RPM ファイルです。

注 – 次に、NPS ドライバをインストールする手順を示します。NPS ドライバには、JNET ドライバおよびマシンチェックカーネルドライバのほか、POCI および監視デーモンも含まれています。サーバーのサービスプロセッサに対してハードウェア監視、OS 状態レポート、および SNMP プロキシサービスを有効にするには、このソフトウェアが必要です。

6. 使用しているオペレーティングシステムのバージョンおよびアーキテクチャーに対応する NPS RPM を Documentation and Support Files CD で探します。

NPS RPM ファイルは、CD の最上位パス (/support/sysmgmt/) 内の OS 別のディレクトリに収録されています。

7. 次のコマンドを入力して、NPS RPM をインストールします。

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/support/sysmgmt/suse/sles9/ \  
nps-OS_name_version-Build_number-V2.rpm
```

nps-OS_name_version-Build_number-V2 は、NPS RPM ファイルの OS 名、OS バージョン番号、ビルド番号、NSV バージョン、およびアーキテクチャーを表します。ファイル名の例を次に示します。

```
nps-sles9-2.6.5-7.97-smp-V2.2.0.6-0.x86_64.rpm
```

この方法以外に、次のコマンドを入力して、ソースから NPS RPM をコンパイルしてインストールすることもできます。

```
# cd /usr/src/packages  
# tar -xvf /mnt/cdrom/support/sysmgmt/src/nps_filename.tar.gz  
# rpm -bb SPECS/nps.spec  
# rpm -ivh `find ./RPMS | grep nps`
```

注 – Linux 系システムの中には、rpm コマンドではなく、rpmbuild コマンドが必要なものもあります。使用しているバージョンの Linux のマニュアルで確認してください。

8. インストールが正常に完了したら、次のコマンドを実行してシステムを再起動します。

```
# reboot
```

第6章

SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール

この章では、Sun Fire V20 サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーで SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアをインストールおよび更新する方法について説明します。2 種類のサーバー間で手順が異なる場合は、その違いを明記しています。

注 – この章のシステム管理手順は、基本的な Linux 管理またはそれ以上の経験があるユーザーを対象としています。

注 – オペレーティングシステムをインストールするときは、Sun Installation Assistant CD を使用すると便利です。Sun Installation Assistant は、SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレードも。

この章では、次の内容について説明します。

- 52 ページの「CD または DVD からの SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール」
- 56 ページの「ネットワークからの SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール」
- 60 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」

CD または DVD からの SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール

この節では、SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアを SUSE Linux Professional 9 媒体セットからインストールする方法について説明します。

CD または DVD からのインストールは、次の手順で行います。

1. SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアをインストールします。詳細は、54 ページの「CD または DVD からのソフトウェアのインストール」を参照してください。
2. SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアを更新します。詳細は、60 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

54 ページの「CD または DVD からのソフトウェアのインストール」の手順では、次のものがが必要です。

注 – DVD からインストールする場合は、インストール先のシステムに DVD-ROM ドライブが装備されている必要があります。サーバーを注文するときに、DVD-ROM ドライブの取り付けを依頼することもできます。

- 次の周辺機器を装備した Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバー
 - CD-ROM または DVD-ROM ドライブ (DVD からのインストールでは DVD-ROM ドライブが必須)
 - PS/2 キーボード
 - PS/2 マウス
- モニター
- SUSE 9.0 Professional Media CD セット (CD が 5 枚、または DVD が 1 枚)
- Sun Fire V20z or Sun Fire V40z Documentation and Support Files CD

注 – インストールにはマウスを使用することをお勧めしますが、必須ではありません。マウスを使用しない場合は、**Tab** キーを使用して選択項目を切り替えることができます。

Sun Installation Assistant CD を使用する場合は、マウスが必要です。

CD または DVD からのソフトウェアのインストール

注 – Sun Installation Assistant CD を使用する場合は、手順 4 から開始してください。

1. キーボードおよびモニターを、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの適切なコネクタに接続します。
 2. SUSE Linux Professional 9.0 CD 1 (または DVD) を挿入し、サーバーを起動します。
サーバーが CD/DVD から起動され、メニューにインストールオプションが表示されます。
 3. 画面がタイムアウトする前に、矢印キーを使用してメニューから「Installation」を選択し、Enter キーを押して先に進みます。
-

注 – インストーラのビデオ解像度を変更できます。それには、起動メニュー画面の表示中にキーボードの F2 キーを押し、上向き/下向き矢印キーを使用して適切な解像度を選択します。

4. 適切な言語を選択し、「Accept」を選択します。
この選択が終わると、インストーラは推奨設定を取得するためにサーバーを検索します。
5. 新しいインストールを実行するかどうかを確認するダイアログボックスが表示された場合は、「New Installation」を選択してから「OK」を選択します。
推奨設定が「Installation Setting」画面に表示されます。
6. 表示された設定が現在の環境に適している場合は、「Accept」を選択します。適していない場合は、変更するコンポーネントを選択し、必要な変更を加えます。
ほとんどのユーザーは、デフォルト設定のままです。個々のコンポーネントの変更に関する詳細は、『SUSE Linux Professional 9.0 Installation Guide』を参照してください。
7. インストールの開始を確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」を選択します。
まず基本システムがインストールされます。この処理には、5 ～ 10 分程度かかります。
8. CD からのインストールのみ: CD の交換を求めるプロンプトが表示されたら、ドライブから CD を取り出し、指示された CD を挿入して「OK」を押します。
基本システムのインストールが正常に完了すると、システムが再起動します。

注 – Sun Installation Assistant CD を使用している場合は、Assistant GUI がふたたび表示され、適切なドライバが自動的にインストールされます。完了すると、Assistant によってサーバーの再起動を求めるプロンプトが表示されます。

9. 起動メニューが表示されたら、デフォルトのオプションを選択するか、起動メニューがタイムアウトするまで待ちます。

CD からインストールしている場合は、システムの再起動後、インストーラが表示するプロンプトに従って残りの各 CD を挿入し、インストールを完了します。

10. CD からのインストールのみ: 指示された CD を適宜挿入します。

インストール処理の開始時に選択したソフトウェアによっては、一部の CD は不要である場合もあります。

インストーラによる必須の媒体での処理が完了すると、スーパーユーザー用パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

11. スーパーユーザーに対して使用するパスワードを入力します。

注 – パスワードを忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になることがあります。

「Network Configuration」画面に、インストーラによって検出されたネットワークインタフェースが表示されます。

12. 「Accept」を選択してネットワーク設定をそのまま使用するか、必要に応じて変更します。

13. インターネット接続のテストの実行を確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」または「No」を選択します。

このテストは省略することをお勧めします。

14. 「User Authentication Method」画面で、自分の環境に適した認証方法を選択します。

- 「Stand-Alone」を選択すると、新しいユーザーの追加を確認するプロンプトが表示されます。新しいユーザーを追加するか、「Next」を選択できます。

- サーバーをネットワーククライアントとして使用するように選択した場合は、適切な構成パラメータの入力を求めるプロンプトが表示されます。

15. 表示されたリリースノートに目を通し、「Next」を選択します。

16. 「Hardware Configuration」画面で設定を確認し、「Next」を選択します。

設定が保存され、「Installation Completed」画面が表示されます。

17. 「Finish」を選択してインストールを完了します。

18. 60 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」に進みます。

ネットワークからの SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール

ネットワークに接続された PXE サーバーから SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアをインストールする作業は、次の手順で行います。

1. PXE インストールをサポートするようにネットワークを設定します。詳細は、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」を参照してください。
2. PXE サーバーとして使用するシステム上に PXE インストールイメージを作成します。ソフトウェアは、この PXE サーバーからほかのシステム (PXE クライアント) にダウンロードされます。詳細は、57 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」を参照してください。
3. PXE サーバーから PXE クライアントに SUSE Linux ソフトウェアをインストールします。詳細は、59 ページの「PXE サーバーからのソフトウェアのインストール」を参照してください。
4. SUSE Linux ソフトウェアを更新します。詳細は、60 ページの「オペレーティングシステムおよびドライバの更新」を参照してください。

用意するもの

PXE インストール手順では、次のものが必要です。

- 63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」に従って設定し、次の周辺機器を装備した DHCP サーバー
 - CD-ROM または DVD-ROM ドライブ (DVD のインストールでは DVD-ROM が必須)
 - PS/2 キーボード
- モニター
- SUSE 9.0 Professional Media CD セット (CD が 5 枚、または DVD が 1 枚)
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成

この手順では、DHCP サーバーとして使用しているシステム上に PXE インストールイメージを作成する方法について説明します。これにより、DHCP サーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーから PXE クライアントにオペレーティングシステムファイルが提供されます。

注 – この手順を開始する前に、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」の説明に従って、ネットワークが PXE インストールをサポートするように設定されていることを確認してください。

1. DHCP/PXE サーバーで、SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアを保持するためのディレクトリ構造を設定します。

次の例ではコピー先のディレクトリとして `/home/pxeboot/SunFire_suse9/` を指定していますが、別のディレクトリを指定することもできます。この手順の例では、このディレクトリを使用します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/SunFire_suse9/
```

2. SUSE Linux Professional 9.0 CD 1 (または DVD) を PXE サーバーに挿入し、次のコマンドを入力して、CD の内容を PXE サーバーにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
```

```
# cp -a /media/cdrom/* /home/pxeboot/SunFire_suse9/
```

3. CD からのインストールのみ: 次のコマンドを実行して CD のマウントを解除し、サーバーから取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

4. CD からのインストールのみ: SUSE Linux Professional 9.0 メディアキット内の 5 枚すべての CD について、手順 2 および手順 3 を繰り返します。

5. 次のコマンドを入力して、`autoinst.xml` ファイルを `/tmp/suse9-pxefiles/` ディレクトリから PXE イメージのルートにコピーします。

```
# cp /tmp/suse9-pxefiles/autoinst.xml \  
/home/pxeboot/SunFire_suse9/
```

6. PXE サーバーで、`/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` ファイルに次のエンタリを追加して保存します。

`append` から `autoinst.xml` までのテキストブロックは、改行なしの一続きの文字列として入力してください。

```
default SunFire_suse9
label SunFire_suse9
kernel SunFire_suse9/boot/loader/linux

append textmode=1 initrd=SunFire_suse9/boot/loader/initrd
install=nfs:/home/pxeboot/SunFire_suse9 insmod=bcm5700
autoyast=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/SunFire_suse9/autoinst.xml
```

`n.n.n.n` は、PXE サーバーの IP アドレスです。

注 – コンソールベースのインストールでは、`append` 行に `console=ttyS0,19200` を追加してください。

7. 次のコマンドを入力して、Ethernet RPM および SCSI RPM を適切なディレクトリにコピーします。

```
# cp /tmp/suse9-pxefiles/*.x86_64.rpm \
/home/pxeboot/SunFire_suse9/suse/x86_64/
```

8. 次のコマンドを入力して、RPM 選択ファイルを適切なディレクトリにコピーします。

構築中のシステムが単一プロセッサシステムの場合は、次のコマンドを入力します。

```
# cp /tmp/suse9-pxefiles/Sunfire.sel.up \
/home/pxeboot/SunFire_suse9/suse/setup/descr/Sunfire.sel
```

構築中のシステムが複数のプロセッサを搭載している場合は、次のコマンドを入力します。

```
# cp /tmp/suse9-pxefiles/Sunfire.sel.smp \
/home/pxeboot/SunFire_suse9/suse/setup/descr/Sunfire.sel
```

9. 次のコマンドを入力して、パッケージ説明ファイルを更新します。

```
# cd /home/pxeboot/SunFire_suse9/suse/
# create_package_descr -d /home/pxeboot/SunFire_suse9/suse/ \
-l english
```

この処理には数分かかります。

注 – `create_package_descr` プログラムが見つからない場合は、`autoyast2-utils` パッケージをインストールしてください。

10. 次のコマンドを入力して、入手可能なパッケージのリストを修正します。

```
# echo "Sunfire.sel" >> \  
/home/pxeboot/SunFire_suse9/suse/setup/descr/selections
```

これにより、追加した新しい選択パッケージがインストーラに認識されるようになります。

PXE サーバーからのソフトウェアのインストール

この手順では、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーから要求を開始し、起動イメージファイルを PXE/DHCP サーバーからダウンロードし、要求元のサーバーに SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

注 – この手順では、63 ページの「PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」および 57 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の説明に従って、ネットワークおよび PXE サーバーインストールイメージがあらかじめ設定されていることを前提としています。

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。
PXE クライアントとは、SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアのインストール先の Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーを指します。
2. PXE クライアントにネットワーク起動を求めるプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得しようとします。
3. F8 キーを押して、PXE 起動イメージのダウンロードを開始します。
4. `boot:` プロンプトが表示されたら、57 ページの「PXE サーバー上での PXE インストールイメージの作成」の手順 6 でイメージに指定したラベルを入力します。
SUSE Linux Professional 9.0 インストールイメージが、指定の Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーにダウンロードされます。
5. 使用しているサーバーに Linux オペレーティングシステムを設定する手順については、SUSE Linux Professional 9.0 メディアキットに付属のマニュアルを参照してください。
6. 最新のドライバおよびソフトウェアの入手方法については、60 ページの「SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアの更新」を参照してください。

オペレーティングシステムおよびドライバの更新

CD 媒体に収録されているソフトウェアが最新のバージョンではない場合があります。この媒体のリリース以降に、SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアに対して多くの更新が行われています。

SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアの更新手順については、次の手順を参照してください。

- 60 ページの「SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアの更新」
- 61 ページの「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」

SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェアの更新

システムをセキュリティ上の脅威から保護し、安定性を向上させるため、システムのインストールの完了後に `yast2` プログラムを実行する必要があります。

YaST オンラインアップデートの詳細は、SUSE Linux Professional 9.0 のマニュアルを参照してください。

次の手順は、システムがインターネット接続用に構成されていることを前提としています。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを実行します。
`# yast2 online_update`
3. 画面の指示に従います。

注 – 更新の一部として新しいカーネルがインストールされる場合、一部のドライバがダウングレードされることがあります。詳細は、61 ページの「SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード」を参照してください。

SCSI ドライバおよびネットワークドライバのアップグレード

システムにインストールされているカーネルには、Sun が推奨する最適なドライバが含まれていない場合もあります。ドライバを更新すると、確実に適切なシステムパフォーマンスが得られます。

次に示す手順では、Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD から最新のドライバをコピーする方法について説明します。ドライバ RPM は、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの製品ページからダウンロードすることもできます。どちらのサーバーにも対応している URL は、次のとおりです。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

1. 次のコマンドを実行して、現在システムにインストールされているカーネルを調べます。

```
# rpm -qa | grep ^k_
```

次のような出力が得られます。

```
k_default_2.4.21-102
```

2. Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーに、Documentation and Support Files CD を挿入します。

3. CD をマウントし、CD 内の RPM のディレクトリに移動します。

```
# mount /media/cdrom
```

```
# cd /media/cdrom/support/drivers/suse/suse9
```

4. 手順 1 で調べたカーネルのバージョンに対応するドライバ RPM を特定します。

RPM のファイル名には、カーネルのバージョンと種類が含まれています。たとえば、手順 1 に示したカーネルのバージョンの場合、Ethernet ドライバ (bcm5700) および SCSI ドライバ (lsi) は次のようになります。

```
bcm5700-default-7.0.0_2.4.21_102-suse9_1.x86_64.rpm
```

```
lsi-default-2.05.06_2.4.21_102-suse9_1.x86_64.rpm
```

2.4.21_102 は、k_default_2.4.21-102 に対応するカーネル番号です。

5. 次のコマンドを実行して、RPM ファイルをインストールします。

```
# rpm -Uvh /media/cdrom/support/drivers/suse/suse9/bcm5700-driver.rpm
# rpm -Uvh /media/cdrom/support/drivers/suse/suse9/lsi-driver.rpm
```

bcm5700-driver および *lsi-driver* は、それぞれ、手順 4 で調べた適切な Ethernet ドライバおよび SCSI ドライバの RPM ファイルです。

注 – 次に、NPS ドライバをインストールする手順を示します。NPS ドライバには、JNET ドライバおよびマシンチェックカーネルドライバのほか、POCI および監視デーモンも含まれています。サーバーのサービスプロセッサに対してハードウェア監視、OS 状態レポート、および SNMP プロキシサービスを使用可能にするには、このソフトウェアが必要です。

6. 使用しているオペレーティングシステムのバージョンおよびアーキテクチャーに対応する NPS RPM を Documentation and Support Files CD で探します。

NPS RPM ファイルは、CD の最上位パス (/support/sysmgmt/) 内の OS 別のディレクトリに収録されています。

7. 次のコマンドを入力して、NPS RPM をインストールします。

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/support/sysmgmt/suse/suse9/nps-V2.rpm
```

nps-V2 は、NPS RPM ファイルのバージョンおよびアーキテクチャーを表します。

この方法以外に、次のコマンドを入力して、ソースから NPS RPM をコンパイルしてインストールすることもできます。

```
# cd /usr/src/packages
# tar -xvf /mnt/cdrom/support/sysmgmt/src/nps-V2*.tar.gz
# rpm -bb SPECS/nps.spec
# rpm -ivh `find ./RPMS | grep nps`
```

注 – Linux 系システムの中には、rpm コマンドではなく、rpmbuild コマンドが必要になるものもあります。使用しているバージョンの Linux に対応するマニュアルで確認してください。

8. インストールが正常に完了したら、次のコマンドを実行してシステムを再起動します。

```
# reboot
```

付録 A

PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定

この付録では、PXE インストールを実行する前にネットワークを設定する手順を示します。

使用しているオペレーティングシステムに該当する節の手順に従ってください。

- 64 ページの「Red Hat Linux インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」
- 72 ページの「SUSE Linux インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」

Red Hat Linux インストールをサポートするためのネットワークの事前設定

この付録の各手順では、Red Hat Linux ソフトウェアの PXE インストールをサポートするように Linux ネットワークをあらかじめ設定しておく方法を示します。サーバーパッケージがすでに導入され設定されていることを確認した場合は、次の手順の一部が不要になることもあります。

注 – 32 ビット版のユーザーの場合: この付録の Red Hat Linux の手順では圧縮ファイルおよび解凍されるディレクトリについて説明していますが、いずれも 64 ビットインストールのもので、32 ビットインストールを実行している場合は、ファイルおよびディレクトリが若干異なります。

「64 ビット版」では、圧縮ファイルイメージは `rhel3_64-pxefiles.tar.gz` で、解凍されるディレクトリは、`rhel3_64-pxefiles/` です。

「32 ビット版」では、圧縮ファイルイメージは `rhel3_32-pxefiles.tar.gz` で、解凍されるディレクトリは、`rhel3_32-pxefiles/` です。

これ以外のディレクトリおよび指示は、64 ビット版でも 32 ビット版でもすべて同じです。

用意するもの

PXE インストール用にネットワークをあらかじめ設定しておくには、次のものがが必要です。

- 次の周辺機器を装備した Red Hat Enterprise Linux 3 サーバー
 - CD-ROM ドライブ
 - PS/2 キーボード
- モニター
- Red Hat Linux Enterprise Server 3 媒体セット
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

この作業には、次の手順が含まれます。

- 65 ページの「Documentation and Support Files CD からのファイルのコピー」
- 66 ページの「DHCP サーバーの設定」
- 67 ページの「portmap のインストール」
- 67 ページの「TFTP サービスの設定」
- 68 ページの「neopxe 起動サーバーデーモンのインストールと設定」

- 70 ページの「NFS サービスの設定」
- 71 ページの「ファイアウォールの無効化」

Documentation and Support Files CD からのファイルのコピー

この節では、PXE 設定に必要な PXE サポートファイルを Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD からコピーする方法について説明します。ドライバ RPM は、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの製品ページからダウンロードすることもできます。どちらのサーバーにも対応している URL は、次のとおりです。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

1. Sun Fire Documentation and Support Files CD を DHCP/PXE サーバーに挿入します。
2. 次のコマンドを入力して、ファイルを /tmp/ ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom  
# cp /mnt/cdrom/support/pxeboot/rhel3_64-pxefiles.tar.gz /tmp/
```
3. 次のコマンドを入力して、tar ファイルの内容を /tmp/ ディレクトリに解凍します。

```
# tar -zxvf /tmp/rhel3_64-pxefiles.tar.gz
```

ファイルを解凍すると、次の場所にディレクトリが作成され、必要なファイルがすべて展開されます。

/tmp/rhel3_64-pxefiles/

DHCP サーバーの設定

DHCP サーバーとして使用するサーバーで、次の手順を実行します。

1. サーバーの電源を入れ、スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep dhcp-
```

3. DHCP サーバーパッケージがリストにない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 1 を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/dhcp-*.rpm
```

4. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD 1 を取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

5. PXEClient 要求のみが PXEClient 応答を受信するように、DHCP 構成ファイル (/etc/dhcpd.conf など) を設定します。

次のエントリを DHCP 構成ファイルに追加します。詳細は、dhcp.conf マニュアルページを参照してください。

```
class "PXE" {match if substring(option vendor-class-identifier, 0, 9)
="PXEClient"; option vendor-class-identifier "PXEClient";}
```

注 - サーバーの /etc ディレクトリに dhcpd.conf ファイルがない場合は、サンプルとして付属している DHCP 構成ファイルを使用してください。次のファイルをコピーして、変更します。
/tmp/rhel3_64-pxefiles/dhcpd.conf

6. 次のコマンドを入力して、DHCP サービスを開始します。

```
# service dhcpd start
```
7. 常に DHCP サービスを開始するようにサーバーを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
# chkconfig dhcpd on
```

portmap のインストール

DHCP サーバーで次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、portmap サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep portmap
```

2. portmap がリストにない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して CD から portmap パッケージをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/portmap-*.rpm
```

3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD 2 を取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

TFTP サービスの設定

DHCP サーバーで次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、TFTP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep tftp-server
```

2. TFTP サーバーパッケージがリストにない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 1 を挿入し、次のコマンドを入力して CD からこのパッケージをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/tftp-server-*.rpm
```

3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```

4. /etc/xinetd.d/tftp ファイルを次のように変更して、保存します。

a. -s /tftpboot エントリを -s /home/pxeboot に変更します。

b. disable 属性を no に変更します。

5. 次のコマンドを入力して、xinetd サービスを再開します。

```
# service xinetd restart
```

neopxe 起動サーバーデーモンのインストールと設定

DHCP サーバーで次の手順を実行します。

注 - neopxe サーバーは、同じシステム上で動作している DHCP サーバーと併用できるように設計されています。

1. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーとして機能しているシステムに neopxe 起動サーバーデーモンをインストールします。

```
# cd /tmp/rhel3_64-pxefiles/neopxe-0.2.0/
# ./configure
# make
# make install
```
2. 次のコマンドを入力して、パス `/usr/local/sbin/neopxe` を `rc.local` ファイルに追加します。このとき、大なり記号は必ず 2 つ使用してください。

```
# echo "/usr/local/sbin/neopxe" >> /etc/rc.d/rc.local
```
3. 次のコマンドを入力して、PXE Linux イメージを `/home/pxeboot` ディレクトリにコピーします。

```
# mkdir /home/pxeboot
# cp /tmp/rhel3_64-pxefiles/pxelinux.0 /home/pxeboot
```
4. 次のコマンドを入力して、PXE Linux イメージを設定します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/
# touch /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```
5. 起動時に neopxe が構成ファイルとして読み取る `/usr/local/etc/neopxe.conf` を編集します。
 - neopxe.conf ファイルが前述の場所がない場合は、65 ページの「Documentation and Support Files CD からのファイルのコピー」に示した手順でこのファイルをすでにダウンロードしていると、`/tmp/rhel3_64-pxefiles/neopxe0.2.0/` からコピーできます。
 - 有効な構成ファイルでは、次の各行のエントリが必ず指定されている必要があります。service 行は複数指定できます。

```
ip_addr=n.n.n.n
prompt=boot-prompt-string
prompt_timeout=timeout
service=service-number,boot-server,boot-file,label
```

各エントリの意味は次のとおりです。

- *n.n.n.n* は、PXE サーバーの IP アドレスです。
- *boot-prompt-string* は、ネットワーク起動時に表示される文字列で、F8 キーを押して起動メニューを表示するようユーザーに求めるプロンプトです。
- *timeout* は、プロンプトの表示が終了して、デフォルトでサーバーの最初のサービスが起動するまでの秒数です。
- *service-number* は、起動サービスを識別する 1 ~ 254 の範囲内の整数です。
- *boot-server* は、その起動サービスを実行する起動サーバーの IP アドレスです。
- *boot-file* は、/home/pxeboot ディレクトリから読み込まれる起動ファイルの名前です。
- *label* は、F8 キーを押して起動メニューを呼び出したときに表示される文字列です。

次に例を示します。

```
ip_addr=192.168.0.1
prompt=Press [F8] for menu...
prompt_timeout=10
service=1,192.168.0.1,pxelinux.0,Linux
service=2,192.169.0.1,nbp.unknown,Solaris
```

注 - 詳細は、`neopxe.conf` のマニュアルページを参照してください。

6. 次のコマンドを実行して、`neopxe` デーモンを開始します。

```
# /usr/local/sbin/neopxe
```

NFS サービスの設定

DHCP サーバーで次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、NFS サービスパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep nfs-utils
```
2. NFS サーバーパッケージがリストにない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して CD をマウントし、このパッケージを CD からインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/nfs-utils-*.rpm
```
3. 次のコマンドを入力したあとに、サーバーから CD を取り出します。

```
# umount /dev/cdrom
```
4. `/etc/exports` ファイルに次の行を追加して保存します。

```
/home/pxeboot *(no_root_squash,no_subtree_check,insecure)
```
5. 次のコマンドを入力して、NFS サービスを開始します。

```
# service nfs start
```
6. 常に NFS サービスを開始するようにサーバーを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
# chkconfig nfs on
```

注 – DNS サーバーを使用している場合は、`dhcpd.conf` ファイルの `pxe` サブネット `dynamic-bootp` エントリに定義されているアドレス範囲に対して、この DNS のエントリが存在することを確認します。

DNS サーバーを使用していない場合は、`dhcpd.conf` ファイルの `pxe` サブネット `dynamic-bootp` エントリに定義されているホストアドレスの範囲を `/etc/hosts` ファイルに追加します。

ファイアウォールの無効化

PXE サーバーとして使用するシステムに Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをインストールしたときにファイアウォールセキュリティを有効にした場合は、次の手順に従ってファイアウォールを無効にして、サーバーから PXE クライアントにソフトウェアをダウンロードできるようにします。

注 – PXE サーバーとして使用しているシステムでファイアウォール保護を無効にすると、そのサーバー上のデータセキュリティが保証されなくなります。このサーバーがローカルなイントラネット外にネットワーク接続されている場合は、PXE クライアントにソフトウェアをダウンロードしたあとで、再度ファイアウォールを有効にしてください。

1. 次のコマンドを入力して、ipchains サービスを停止します。
service ipchains stop
2. 次のコマンドを入力して、iptables サービスを停止します。
service iptables stop
3. 次のコマンドを入力して、サーバーの再起動時に ipchains サービスが開始されないようにします。
chkconfig ipchains off
4. 次のコマンドを入力して、サーバーの再起動時に iptables サービスが開始されないようにします。
chkconfig iptables off

注 – ipchains サービスがサーバーにインストールされていない場合、エラーメッセージが表示されることがあります。このエラーメッセージは、無視してもかまいません。

ネットワークからの Red Hat Linux のインストール

1. 設定手順がすべて完了したあとに、サーバーを再起動します。
2. PXE インストールの手順については、14 ページの「ネットワークからの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール」を参照してください。

SUSE Linux インストールをサポートするためのネットワークの事前設定

この付録の各手順では、SUSE Linux ソフトウェアの PXE インストールをサポートするように Linux ネットワークをあらかじめ設定しておく方法を示します。どの手順も、適切な SUSE Linux オペレーティングシステムが動作している起動可能なサーバーがすでに存在していることを前提としています。

注 – サーバーパッケージがすでに導入され設定されていることを確認した場合は、次の手順の一部が不要になることもあります。UnitedLinux CD を求めるプロンプトが表示される場合があります。

この作業には、次の手順が含まれます。

- 73 ページの「Documentation and Support Files CD からのファイルのコピー」
- 73 ページの「DHCP サーバーの設定」
- 74 ページの「portmap のインストール」
- 75 ページの「TFTP サービスの設定」
- 76 ページの「neopxe 起動サーバーデーモンのインストールと設定」
- 78 ページの「NFS サービスの設定」
- 79 ページの「ファイアウォールの無効化」

用意するもの

PXE インストール用にネットワークをあらかじめ設定しておくには、次のものがが必要です。

- 次の周辺機器を装備した SUSE Linux Enterprise 8 サーバー (SUSE Linux Enterprise 8 ネットワークインストールの場合) または SUSE Professional 9.0 サーバー (SUSE Professional 9.0 ネットワークインストールの場合)
 - CD-ROM または DVD-ROM ドライブ (DVD のインストールでは DVD-ROM が必須)
 - PS/2 キーボード
- モニター
- SUSE Linux 媒体セット
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD

Documentation and Support Files CD からのファイルのコピー

この節では、PXE 設定に必要な PXE サポートファイルを Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD からコピーする方法について説明します。ドライバ RPM は、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの製品ページからダウンロードすることもできます。どちらのサーバーにも対応している URL は、次のとおりです。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

1. Sun Fire Documentation and Support Files CD を DHCP/PXE サーバーに挿入します。

2. 一時ディレクトリを作成して、PXE サポートファイルをコピーします。

```
# mkdir /tmp/
```

3. 次のコマンドを入力して、ファイルを /tmp/ ディレクトリにコピーします。

```
# mount /media/cdrom
```

```
# cp /media/cdrom/support/pxeboot/version-pxefiles.tar.gz /tmp/
```

version は、SUSE Linux Enterprise Server 8 の場合は *sles8*、SUSE Linux Enterprise Server 9 の場合は *sles9*、SUSE Linux Professional 9.0 の場合は *suse9* です。

4. 次のコマンドを入力して、tar ファイルの内容を /tmp/ ディレクトリに解凍します。

```
# tar -zxvf /tmp/version-pxefiles.tar.gz
```

ファイルを解凍すると、次の場所にディレクトリが作成され、必要なファイルがすべて展開されます。

/tmp/sles8-pxefiles/、/tmp/sles9-pxefiles/、または /tmp/suse9-pxefiles/

DHCP サーバーの設定

DHCP サーバーとして使用するサーバーで、次の手順を実行します。

1. サーバーに電源を入れ、スーパーユーザーとしてログインします。

2. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep dhcp-server
```

3. DHCP サーバーパッケージがリストにない場合は、`yast` を使用した次のコマンドで、このパッケージをインストールします。

```
# yast -i dhcp-server
```

4. PXEClient 要求のみが PXEClient 応答を受信するように、DHCP 構成ファイル (`/etc/dhcpd.conf` など) を設定します。

次のエントリを DHCP 構成ファイルに追加します。詳細は、`dhcp.conf` マニュアルページを参照してください。

```
class "PXE" {match if substring(option vendor-class-identifier,  
0, 9) ="PXEClient"; option vendor-class-identifier "PXEClient";}
```

注 – 次のディレクトリにあるサンプルの DHCP 構成ファイルを使用できます。
`/tmp/sles8-pxefiles/`、`/tmp/sles9-pxefiles/`、または `/tmp/suse9-pxefiles/`

5. SUSE Linux Enterprise Server 9 または SUSE Linux Professional 9.0 の場合：
`/etc/sysconfig/dhcpd` ファイルを開き、`DHCPD_INTERFACE` の値として、PXE サーバーを稼働させるネットワークへのインタフェースを設定します。

たとえば、Ethernet インタフェース `0` を使用している場合は、`DHCPD_INTERFACE` 変数を次のように設定します。

```
DHCPD_INTERFACE="eth0"
```

6. 次のコマンドを入力して、DHCP サービスを開始します。

```
# /etc/init.d/dhcpd start
```

7. 次のコマンドを入力して、常に DHCP サービスを開始するようにサーバーを設定します。

```
# chkconfig dhcpd on
```

portmap のインストール

DHCP サーバーで次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、`portmap` サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep portmap
```

2. `portmap` がリストにない場合は、`yast` を使用した次のコマンドで、このパッケージをインストールします。

```
# yast -i portmap
```

TFTP サービスの設定

DHCP サーバーで次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、TFTP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep tftp
```

2. TFTP サーバーパッケージがリストにない場合は、`yast` を使用した次のコマンドで、このパッケージをインストールします。

```
# yast -i tftp
```

3. SUSE Linux の該当するバージョンに対応するファイルを次のように編集します。

- `inetd` を使用するシステムの場合: `/etc/inetd.conf` ファイルを次のように変更して保存します。

- `tftp` サービスの前にあるコメントを探して削除します。

- `-s /tftpboot` エントリを `-v -s /home/pxeboot` に変更します。

- `xinetd` を使用するシステムの場合: `/etc/xinetd.d/tftp` ファイルに次のように変更を加えて保存します。

- `-s /tftpboot` エントリを `-v -s /home/pxeboot` に変更します。

- `disable` 属性を `no` に変更します。

4. 次のコマンドを入力して、`inetd` サービスを再開します。

- `inetd` を使用するシステムの場合:

```
# /etc/init.d/inetd restart
```

- `xinetd` を使用するシステムの場合:

```
# /etc/init.d/xinetd restart
```

neopxe 起動サーバーデーモンのインストールと設定

DHCP サーバーで次の手順を実行します。neopxe サーバーは、同じシステム上で動作する DHCP サーバーと併用できるように設計されています。

1. サーバーにコンパイラがインストールされていない場合は、yast を使用した次のコマンドで gcc をインストールします。

```
# yast -i gcc
# yast -i make
```

2. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーとして機能しているシステムに neopxe 起動サーバーデーモンをインストールします。

```
# cd /tmp/version-pxefiles/neopxe-0.2.0
# ./configure
# make
# make install
```

version は、SUSE Linux Enterprise Server 8 の場合は *sles8*、SUSE Linux Enterprise Server 9 の場合は *sles9*、SUSE Linux Professional 9.0 の場合は *suse9* です。

3. 次のコマンドを入力して、パス `/usr/local/sbin/neopxe` を `rc.local` ファイルに追加します。このとき、大なり記号は必ず 2 つ使用してください。

```
# echo "/usr/local/sbin/neopxe" >> /etc/rc.d/boot.local
```

4. 次のコマンドを入力して、`/tmp/` ディレクトリから PXE Linux イメージをコピーします。

```
# mkdir /home/pxeboot
# cp /tmp/version-pxefiles/pxelinux.0 /home/pxeboot
```

version は、SUSE Linux Enterprise Server 8 の場合は *sles8*、SUSE Linux Enterprise Server 9 の場合は *sles9*、SUSE Linux Professional 9.0 の場合は *suse9* です。

5. 次のコマンドを入力して、PXE Linux イメージを設定します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/
# touch /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

6. 起動時に neopxe が構成ファイルとして読み取る `/usr/local/etc/neopxe.conf` を編集します。

- `/usr/local/etc/` ディレクトリが存在しない場合は、次のコマンドで作成します。

```
# mkdir /usr/local/etc
```

- `neopxe.conf` ファイルを作成する必要がある場合は、
`/tmp/sles8-pxefiles/neopxe-0.2.0/`、
`/tmp/sles9-pxefiles/neopxe-0.2.0/`、
`/tmp/suse9-pxefiles/neopxe-0.2.0/` のいずれかのディレクトリからコピーできます。

- 有効な構成ファイルでは、次の各行のエントリが必ず指定されている必要があります。 `service` 行は複数指定できます。

```
ip_addr=n.n.n.n  
prompt=boot-prompt-string  
prompt_timeout=timeout  
service=service-number,boot-server,boot-file,label
```

各エントリの意味は次のとおりです。

- `n.n.n.n` は、PXE サーバーの IP アドレスです。
- `boot-prompt-string` は、ネットワーク起動時に表示される文字列で、F8 キーを押して起動メニューを表示するようユーザーに求めるプロンプトです。
- `timeout` は、プロンプトの表示が終了して、デフォルトでサーバーの最初のサービスが起動するまでの秒数です。
- `service-number` は、起動サービスを識別する 1 ~ 254 の範囲内の整数です。
- `boot-server` は、その起動サービスを実行する起動サーバーの IP アドレスです。
- `boot-file` は、`/home/pxeboot` ディレクトリから読み込まれる起動ファイルの名前です。
- `label` は、F8 キーを押して起動メニューを呼び出したときに表示される文字列です。

次に例を示します。

```
ip_addr=192.168.0.1  
prompt=Press [F8] for menu...  
prompt_timeout=10  
service=1,192.168.0.1,pxelinux.0,Linux  
service=2,192.169.0.1,nbp.unknown,Solaris
```

注 - 詳細は、`neopxe.conf` のマニュアルページを参照してください。

7. 次のコマンドを実行して、neopxe デーモンを開始します。

```
# /usr/local/sbin/neopxe
```

NFS サービスの設定

DHCP サーバーで次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、NFS サービスパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうかを調べます。

```
# rpm -qa | grep nfs-utils
```

2. NFS サーバーパッケージがリストにない場合は、yast を使用した次のコマンドで、このパッケージをインストールします。

```
# yast -i nfs-utils
```

3. /etc/exports ファイルに次の行を追加して保存します。

```
/home/pxeboot *(sync,no_root_squash,no_subtree_check,insecure)
```

4. 必要に応じて次のコマンドを入力して、NFS サービスを開始します。

```
# /etc/init.d/nfsserver start
```

5. 次のコマンドを入力して、常に NFS サービスを開始するようにサーバーを設定します。

```
# chkconfig nfslock on
```

```
# chkconfig nfsserver on
```

注 – DNS サーバーを使用している場合は、dhcpd.conf ファイルの pxe サブネット dynamic-bootp エントリに定義されているアドレス範囲に対して、この DNS のエントリが存在することを確認します。

DNS サーバーを使用していない場合は、dhcpd.conf ファイルの pxe サブネット dynamic-bootp エントリに定義されているホストアドレスの範囲を /etc/hosts ファイルに追加します。

ファイアウォールの無効化

PXE/DHCP サーバーでファイアウォールが有効になっている場合は、そのファイアウォールを無効にしてから、PXE イメージをクライアントシステムにインストールしてください。

注 – PXE サーバーとして使用しているシステムでファイアウォール保護を無効にすると、そのサーバーのデータセキュリティが保証されなくなります。このサーバーがローカルなイントラネット外にネットワーク接続されている場合は、PXE クライアントにソフトウェアをダウンロードしたあとで、再度ファイアウォールを有効にしてください。

ネットワークからの SUSE Linux のインストール

1. 設定手順がすべて完了したあとに、サーバーを再起動します。
2. 次のいずれかの適切な手順を参照して、インストールを完了します。
 - 14 ページの「ネットワークからの Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェアのインストール」
 - 28 ページの「ネットワークからの SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェアのインストール」

索引

O

OS インストールの概要, 2

R

Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェア

CD からのインストール, 10

PXE インストールイメージの作成, 15

インストールイメージ、PXE サーバーからのダウンロード, 18

インストールの概要, 9

起動イメージファイルのダウンロード, 18

ドライバおよびカーネルの更新, 19

ネットワークからのインストール, 14

インストールイメージ、PXE サーバーからのダウンロード, 46

インストールの概要, 37

起動イメージファイルのダウンロード, 46

ドライバおよびカーネルの更新, 47

ネットワークからのインストール, 42

SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェア

CD または DVD からのインストール, 52

PXE インストールイメージの作成, 57

インストールイメージ、PXE サーバーからのダウンロード, 59

インストールの概要, 51

起動イメージファイルのダウンロード, 59

ドライバおよびカーネルの更新, 60

ネットワークからのインストール, 56

S

SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェア, 33

CD からのインストール, 24

PXE インストールイメージの作成, 29

インストールイメージ、PXE サーバーからのダウンロード, 33

インストールの概要, 23

起動イメージファイルのダウンロード, 33

ドライバおよびカーネルの更新, 34

ネットワークからのインストール, 28

SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェア, 46

CD からのインストール, 38

PXE インストールイメージの作成, 43

い

インストール、Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェア、「Red Hat Enterprise Linux 3 ソフトウェア」を参照

インストール、SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェア、「SUSE Linux Enterprise Server 8 ソフトウェア」を参照

インストール、SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェア、「SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェア」を参照

インストール、SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェア、「SUSE Linux Professional 9.0 ソフトウェア」を参照
インストールの前提作業, 2

か

カーネル、「ドライバ」および「カーネル」を参照, 19

こ

更新、ドライバおよびカーネル、各 OS の索引項目を参照

と

ドライバおよびカーネルの更新、各 OS の索引項目を参照

ま

マニュアルの概要, 2

マニュアルの使用法, 2

マニュアルを使用するための準備作業, 2